



長年の棚田交流活動が 新しい力や活動を生みだす

高齢化・過疎化で地域活動の担い手が減少。これまで継続してきた地域活動を途絶えさせないよう、まちづくり会社や棚田オーナー会メンバー等と連携し、活動の維持・継続に取り組んでいます。

活動の背景と目的

菅地区は、人材が豊富な地区で、全国的にも先駆けて平成8年から「棚田オーナー制度」に取り組むなど、農地の保全・利活用や都市農村交流を目的とした様々な活動に早くから取り組んできましたが、高齢化が進み、活動の担い手が減少しています。

これまで続けてきた活動と参加者との絆を途絶えさせないように、地域の担い手の確保に努めていきます。

活動（事業）内容

菅（すげ）山里からのすげえ～贈り物

平成 30 年度

- 棚田の畦道散歩（ウォーキング）と自然素材を使ったワークショップ（こけ玉づくり、かづらかごづくり）イベントの開催
- 案内ガイドの育成
- クッキング講座の開催（女性メンバーを対象）

令和元年度

- 鈴羊井手散策と自然素材を使ったワークショップ（こけ玉づくり）イベントの開催
- 交流イベントの開催（鮎の瀬大橋開通 20 周年記念イベント）

連携団体

株式会社まちづくりやべ
棚田オーナー会 など

現在の活動と今後の展望

まちづくり会社である「株式会社まちづくりやべ」の協力を得ながら、棚田のオーナーさんたちと長年にわたって築いてきた関係を失わないように、活動を続けていきたいです。



菅の棚田を守る歴史ある「鈴羊井手」の散策



ワークショップ：こけ玉づくり体験



地域の食を味わうクッキング講座

【連絡先】 熊本県上益城郡山都町下市 16
株式会社まちづくりやべ 企画事業部
TEL：0967-72-9400

ポイント1 まちづくり会社や指導員活動が地域の活動を支援

「株式会社まちづくりやべ」や指導員等との協力関係は、地区の高齢化や人口の減少により、担い手が減少している地元の活動や交流事業の継続へ貢献している。



守っていききたい棚田の原風景



まちづくりやべと連携した鴨猪水力発電所ガイド

ポイント2 棚田オーナーが自ら組織化し、活動している

平成28年熊本地震による棚田の破損、高齢化や獣害等で管理作業が困難になった時、長年にわたり関係を育んできた棚田オーナーの皆さんが自主的な活動組織を立ち上げ、現在も地域と協力して棚田の維持を行っている。



棚田オーナーが管理する水田



棚田オーナー会での稲刈り

ポイント3 棚田を介して生まれた様々な団体や人との交流が元気の素

交流事業で、おもてなし担当の女性部や体験活動担当の男性陣など役割分担ができているとともに、長年の交流活動を支えてきた「女性部の輝き」が菅の活動の源になっている。



女性部によるクリスマスリースづくり



棚田オーナー会メンバーが定期的に企画する体験学習会



棚田 PR 事業
(棚田ツアー)

田舎の体験交流館
さんがうら運営委員会

球磨郡 球磨村

交流施設運営が 地域の棚田の再生を後押しする

日本の棚田百選に選定された「松谷棚田」の遊休農地対策や環境保全の意欲醸成を図るため、棚田オーナー制度を導入。棚田保存会等と連携し、都市農村交流活動に取り組んでいます。

活動の背景と目的

「棚田オーナー制」は8年前に棚田の再生と遊休農地の再生・活用を目的に取り組み始めました。

米を買ってもらうというシステムで、購入口数で募集し、田植え、稲刈り、収穫祭の交流事業を実施してきました。村に来て滞在してもらうことで、村の良さや農村の現状への理解醸成に寄与することを目指しています。

活動(事業)内容

日本の棚田百選「松谷棚田」
日本で最も美しい村の棚田再生プロジェクト

平成 30 年度

- 棚田オーナーによる田植え・稲刈り・掛け干し体験
- そば打ち体験ツアー、年越し用そば打ち体験の実施
(遊休農地再生を目的としてそばを栽培)

令和元年度

- 棚田オーナーによる田植え・稲刈り・掛け干し体験
- 棚田のそば打ち体験ツアーの実施
- 綿花の機織り体験ツアーの実施
- 棚田のそば打ち体験ツアー

連携団体

球磨村、球磨村棚田保存会、くまむら山村活性化協会

現在の活動と今後の展望

綿花はイノシシが食べない作物なので、耕運機が入らない遊休農地(棚田)での栽培を試みています。収穫した綿花は体験活動での利用を考えています。

また、棚田ツアーや棚田米の販売などに力を入れ、地域一体となって「黄金の棚田の復活」を目指したいと考えています。



棚田オーナーの田植え体験



そば打ち体験ツアー



綿花の機織り体験ツアー

【連絡先】 熊本県球磨郡球磨村大字三ヶ浦乙 629 番地 3
田舎の体験交流館 さんがうら運営委員会
TEL : 0966-32-0443

【情報発信サイト】

HP: <https://sangaura.com/>



ポイント1 交流施設の活動が棚田の保全活動の幅を広げる

地区の役員で構成される運営委員会が交流施設の指定管理者となり、運営的に安定することが活動の幅を広げることに繋がり、棚田オーナー制の拡大のための協力体制の確保や、新たな取り組みを生み出している。



守っていききたいふるさとの原風景



地域活動の拠点となる廃校利用施設
「田舎の体験交流館さんがうら」

ポイント2 獣害対策も兼ねて、コメだけでなく綿花やそばも栽培

米だけでなく、獣害対策等も兼ねて、ソバや綿花の栽培を行なっている。収穫物は体験交流の素材にする等の工夫もしている。



イノシシなどが食べない綿花の栽培



ソバの栽培

ポイント3 9つの棚田保存会と地域住民がオーナー田の作付け等に協力

行政と連携し県外在住の村出身者等へ呼びかけ、遠隔地のオーナーの取り込みに成功するとともに9つの棚田保存会と地域住民によって棚田の保全・管理を行うなどの協力体制ができている。



棚田保存会の協力で実施している稲刈り体験



棚田保存会による棚田の管理作業